

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



潮騒JTCでは、他の福祉施設に比べて入寮者の死亡が目立つ。依存症は自傷行為による緩慢な自殺とされるように、長期にわたってアルコールや薬物を使い続け、あるいはギャンブル漬けの荒廃した生活によって、身も心もボロボロになって潮騒に辿り着く者が圧倒的に多く、健康面での自己管理を怠ってきたツケが死期を早めている。悲しいことに当人が亡くなっても、家族が葬式を出すことや遺骨の引き取りを拒む。このため、死んだ仲間を入寮者全員で追悼する施設葬として営まれるケースが増えている。(センジイ葬儀での出棺風景)

2017

1

死んだ仲間への鎮魂歌

～依存症の回復はあの世でも続く



正月気分はすっかり失せている頃ですが、どうか今年も宜しくお願いします。潮騒では年頭に入寮者が、すぐ近くの鹿島神宮に初詣に行くのが習わしです。私も仲間達と一緒に「今年も1年無事故で健康に過ごせますように」「仲間が一人でも多く回復できますように」と祈願しました。なのに、その願いも空しく松の内が明けるのを待つように、またもや仲間があのに旅立ちました。かつて「日本で一番死に近い場所」と言われたダルクや潮騒 JTC ですが、全国各地に施設が増えたお蔭で死ぬ仲間がずいぶんと減りました。受け皿となる選択肢が増えたのはいいとして、問題は出口です。依然として社会復帰できる環境が遅々として進まないことが関連施設を増やす動きを後押しし、皮肉にも施設内の滞留化を加速させています。この困難を自力で突破しようと、潮騒では就労支援に力を入れています。入寮者は長年に及ぶ依存症人生の影響で精神や肉体のダメージが酷く、もともと健康管理が苦手な人達なので、虚を突くように亡くなります。最近は既存の福祉施設から匙を投げられた行き場のない高齢者が増え、結果的に潮騒で死を迎えるケースが多くなっています。そうした仲間の死に遭遇するたびに、私は自分の無力を思い知らされます。

今回亡くなったのは古株の入寮者だったセンジイです(→本号3ページ)。センジイはお爺さんのような風貌からそうアノニマスを名乗っていましたが、私よりも15歳も若い入寮者でした。彼はアルコールやシンナー、覚醒剤、薬物なら何でもござれの“つわもの”で、なかなか回復のレールに乗れずに施設の出入りを繰り返しました。よく私に不満をぶつけ食ってかかりましたが、お人よしで憎めない仲間でした。人付き合いが下手で、トラブルメーカーの一人でしたが、動物には限りない愛情を示し、施設では動物の世話係を買って出て、雨の日でも合羽を着て犬を散歩に連れ出していました。

残念だったのは、潮騒のお別れ会(施設葬)にセンジイの家族や親族が誰一人として参列しなかったことです。これは何もセンジイに限った事ではありません。これまで潮騒で亡くなった仲間の葬儀では、大半の家族が厄介払いよろしく、「すべて栗原さんにお任せします」という態度でした。私にはうかがえ知れない家族の葛藤や許せない反発感情があるとしても、せめて最期ぐらいは家族に骨を拾ってもらいたい、という私の切なる願いはなかなか叶いません。むしろ家族からは「命を落としたのは自業自得、これで本人も楽になっただろう。さんざん私達を苦しめて…」と恨みの感情が強く、本人が死んだことを悲しむよりも安堵している様子がうかがえます。

私は火葬場でセンジイの骨を拾いながら、彼に沈黙の言葉で語り掛けました。「センジイ、肉体は滅びても依存症の回復に終わりはないよ。いずれ私も同じところに行くから、そしたら一緒にまたミーティングをやろうな。身内は誰一人来てくれなかったけど、潮騒で仲間という新しい家族を手に入れたじゃないか。君の魂はいつまでも仲間と一緒にだよ!」と。センジイの霊よ、どうか安かれ!

(センター長 栗原 豊)

センジイのお別れ会

毎日犬の散歩を欠かさなかった仲間の死を惜しむ



下津ナイトケア施設で、毎日犬の散歩を欠かさなかった「センジイ」こと江口剛志(えぐち・たけし)さん(享年 60 歳)が、多臓器不全で1月9日夕に小山病院で亡くなり、11日に鹿嶋市内のさがみ典礼鹿嶋ホールでお別れ会(施設葬)が営まれ、多くの入寮者が参加してセンジイの死を悼みました。

センジイは東京都出身で、長く薬物やアルコール依存症に苦しみ、紆余曲折を経てダルクに繋がり、必ずしも順調な道のりではありませんでしたが、施設の仲間との絆を励みにプログラムに取り組みました。栗原豊センター長とは潮騒の前史を形成した時期からの古い仲間で、施設への出入りを繰り返した難産な回復者の一人でした。センター長が2ページの随想でも回顧しているように、動物には限りない愛情を示し、特に無類の犬好きとして仲間知られていました。

アディクトには、どちらかというと人間関係が苦手な仲間が多いですが、センジイも入寮者とぶつかる場面がよく

ありました。でも、心根は優しく、自分が適役としていた犬の世話で自分を支えていたのかもしれませんが。長い依存症による病歴により、精神と肉体がボロボロの状態でしたが、そんな中でも犬との散歩が、かろうじて彼の心と体の健康を下支えしていた面がぬぐえません。

お別れ会では、長い付き合いのルミさんが司会を務め、センジイと同じく古参メンバーのヨコ、エン、ヒトシキクさんらが尽きない思い出を語りました。最後に栗原センター長がセンジイよ、君は必ずしも回復は順調ではなかったけれど、私達には反面教師となる掛け替えのない存在でした。どうか安らかに眠ってください」と述べ、同じ釜の飯を食べた古くからの仲間だったセンジイへの弔辞としました。

残念ながらセンジイも家族や親族の参列は叶いませんでしたが、市郊外の鹿嶋斎苑で荼毘に付され、親しかった仲間達が遺骨を拾い、成仏を願いました。センジイは若い頃から重症のシンナー依存でしたが、遺骨は驚くほど骨格がしっかりしていて仲間を驚かせていました。(み)



潮騒恒例

年末年始イベント

潮騒 JTC では年末から年始に掛け、男女合同ボウリング大会(12月22日、カシマボウル)、合同クリスマス会(同25日、鹿嶋勤労文化会館)、年末餅つき大会(同28日、下津ナイトケア施設の駐車場)、息栖神社初打ち太鼓(2017年元旦、神栖市の同神社)、鹿島神宮への初詣&年頭初顔合わせ(1月4日、同神宮)と例年通りの流れで恒例行事が続き、入寮者が季節感ある行事を楽しみながら、今年も地道な回復に向けた取り組みの歩みをスタートさせました。以下は、年末年始イベントをめぐる女性ハウスを中心とした入寮者の感想です—。

潮騒・男女合同ボウリング大会

なあな

るみの家に来てから2回目のボウリング、男女交ざっては初めてでした。ボウリング場を貸し切り、凄い人数に驚きました。センター長の始球式で一斉にスタート。私のチームはるみさん、なあな、ぎんちゃん(退寮しても繋がってくれている仲間)の3人。ハンディはあったものの前回私は100スコア前後だったのが今回は80スコア、ぎんちゃんは前回30スコア程度だったものの今回は120スコア位を出し、るみさんも120前後でした。おかげで全チームの3位に入ることが出来ました。3位ということで景品のお食事券を貰い、美味しいご馳走が食べられましたよ。

いるか

昔はよくボウリングに行ったけれど、相変わらずとても下手です。今回もガーターばかりで恥ずかしい点数でしたが、とても楽しかったです。しかも薬を使わずにシラフでやったことが凄いです。薬やお酒を飲まずに、こんなに楽しめるんだと経験できて良かったです。でも、これが普通なんですよね。だから私は今を大切にしたいです。

めい

元々ボウリングは苦手な私です。良いスコアが出るわけもなくブービー狙いでした。スペアを1回出し、1ゲーム目が50ちょい、2ゲーム目が80ちょい。私の中では凄い結果。久しぶりの仲間とのボウリングに笑顔でいっぱいでした。私もストライク出してハイタッチしたかった〜。くやし〜い。

みく

合同ボウリング大会に、るみの家からは3組出場し、私達のグループは同部屋の仲間3人組でした。何しろ50代2人と40代1人体力が持つかどうか心配でしたが、どうにか乗り切り、私はというと前日エイサー隊達の忘年会の食材の買い出し、当日は朝から忘年会の食事作りの下ごしらえで、少々バテ気味でした。思った通り最後の方はガーターの連続でスコアはボロボロのビリっけつでした。でも、皆で行う行事はいつも楽しく思い切り遊ばせて貰いました。男性陣を見ている余裕もなく本当にどうかピンに当たりますようにと、必死で投げていました。次には体調を万全に整えて挑みたいと思います。

潮騒・男女合同クリスマス会

くま

女性メンバーは、クリスマス会のために出し物の練習をしてきました。私は、ハンドベル、ピコ太郎の踊り、武勇伝、そして恋ダンス…と、どれも初めてやることばかりだったし、施設で行うクリスマス会というものの自体、全く初めての体験でした。私は昨秋から色々な行事に参加し、体験した中で喜びを沢山得られて

満足です。仲間と共に普段の生活とは違った時間を過ごす、心の中に色々な感情が沸き起こり、何ともいえない収穫があります。これが、私の心の成長に一役買ってくれているような気がします。

まこ

男性陣との合同クリスマス会、とてもエンジョイしました。練習を沢山重ねた女性陣の出し物は、皆さんの目にどう写ったのでしょうか？やる時は恥も外聞もなく女を捨て演出しました。53歳という年齢を忘れ必死にやりました。体調崩してしまい、最後のビンゴゲームに参加出来なかったのは残念です。来年もよろしくお願いします。

ゆうこ

私は正直、一カ月以上前からずっと悩んでいて、苦しんできました。お酒を飲んだり、薬物をやったりしている時は気付かなかったけど、パニック障害という病気がこんなにも辛く、乗り越えたいけど乗り越えられないんだな、と思いました。でも、飲まなくても努力すれば、自信を持ってやれば出来ることは沢山あるんだなとも思いました。シラフの自分がこんなにも頑張れるってすごいなと思いました。

年末恒例・潮騒餅つき大会

いるか

何年かぶりの餅つきでしたが、凄く楽しかったです。私も杵で餅をつかせてもらいました。皆が食べる餅を袋詰めにしたのですが、袋の大きさが前年よりやや小さかったので、少し作業が楽になりました。自分達がついたお餅を雑煮にしたり、納豆や大根おろし、あんこ等で食べさせてもらいました。とても美味しかったです。自分の事情で、お餅を食べるのが大丈夫かなあと思ったのですが、なんとか大丈夫でした(笑)。男性陣も美味しいと喜んでいました。来年も参加できるか分かりませんが、また行けたらいいなと思います。

なあな

小さい頃、我が家では庭で餅つき大会を開いていました。色んな人達が集まり、交代で餅をついていたのを覚えています。潮騒に来て、また餅つきが体験出来るとは思っていなかったのも、とてもワクワクでした。会場に着くなり、袋に入れた餅を平らに伸ばす作業に取り掛かりましたが、餅が熱くて熱くて…、「手が焼けてしまうっ！」って思いました。いざ自分が餅をつく段になった時は、久しぶりだったせいか緊張してしまいました(笑)。餅の弾力が凄くて杵を持ち上げるのが大変だったです。その後は、あんこ係をやりました。あんこ率は高かったです(笑)。お雑煮も食べました。つきたてはとても伸びが良く、美味しかったです。小さい頃を思い出す貴重な経験が出来たなあ、と思う一日でした。

みく

潮騒の年末餅つき大会は例年、暮れも押し詰まった寒い時期に開かれますが、活気があっていつも楽しみです。まずは伸し餅を作り、その後男性の入寮者にお雑煮の汁を入れ、出来たての餅2個を熱いけど手でちぎり、入れてあげます。大きいのかいいとか、汁は多めが良いとか、野菜入れないでとか、色々注文はあったけど、皆の嬉しそうな顔を見ると寒さも吹っ飛びました。一段落して私達もお雑煮とあんこ餅を食べました。体が温くなり、杵でつく餅はまた格別でした。センター長と二人で写真も撮って貰いました。男女一体となって出来る行事の一つなのでまた来年も楽しみにしています。

鹿島神宮への初詣

めい

昨年12月の下旬に施設を逃出しスリッパをした私にとって、外に出る事には気が進みませんでした。私のした事で、両親にまた悲しい思いをさせてしまったこと、消せない現実。ただ、気持ちを切り替える事の大切さも施設に来てから学んだので、なんとか重い足を動かして初詣に参加しました。「今年はクリーンで過ごす」ことが、私の最大の目標です。手を合わせしっかりと自分に言い聞かせました。神様が見ている自分に正直になり、本当のクリーンを目指したいです。おみくじも引きました。「大吉」でした。何事も上手くいくが努力を惜しむことのないように、との事。結局、自分次第だということですが、身が引き締まる思いです。寒かったけれど、素敵な1年の始まりになりました。

あお

厭がらずに肯定的に理解を求めることを心に決めた

年が明けて、きょうは一月四日、天気は快晴。潮騒に繋がって早や三回目の鹿島神宮における初詣である。毎年、潮騒の仲間と共にこの由緒ある神社に詣でるのは何とも不思議な縁を感じる。そして年の初めの楽しみでもある。とはいえ若干、今年のお正月は昨年とは違う感じがする。本殿に向かって参拝を済ませた帰りのことである。私自身の体調に、いつもとは違う変化があることに気づいたのである。めまい動悸がしたので、入口付近で一緒にいた仲間と休んでいた。詣でた人々の顔を見ると、どこことなく一人一人が笑顔の様な気がしてならない。あー、今年も自分の周りの人々に喜びを与えないとなればと自覚させられた気がします。また何事にも自分の中にメッセージを求め、指導を求めながら、自分の行いや行動に責任を持ち、どんな状況でも厭がらずに肯定的に理解を求めることを心に決めた。これが私の年頭の抱負であり、一日の感想でもあります。

ユタカ vs トム
対談



助成を受けたファイザープロジェクトで 基盤を整備

その下地となったのはもう 5 年前になるけど、思いがけず大手企業のファイザー製薬からの大型助成が得られたことでした。それまで何ら実績のなかった潮騒 JTC にとっては、とても大きな自信となりました。しかも 3 年連続の助成を認めてくれたから、結構まとまったお金をファイザープロジェクトとして潮騒農業に投下することができた訳です。試行錯誤しながらも、これによってソフト・ハード両面から潮騒農業の基盤整備ができた。事業

トム 国の制度に頼るのではなく、外資系の企業の支援を得て道を切り拓いたというのは面白いし、教訓的です。お金も人脈もノウハウもない、無い無い尽くしの状況で始まった近藤さんの活動に、かろうじてロイ神父とキリスト教会が支援してきたことで何とか持ちこたえられた、初期のダルクのパワフルな時代を思い起こします。(そんな事はなかった訳ですが) もし、潮騒農業に国が助成という形で介入していたなら、縛りや制約も多く、あれこれ口を出されて現場の人達はたまったもんじゃなく、やりづらかったでしょう。今のような、主体的なやる気や創造力は生まれなかったかもしれません。ファイザープロジェクトによって、自由に自分達の思い通りにプロジェクトをやれた事で、潮騒農業の独自性や方向性が形成されたのだと思います。

ユタカ 否定されるだけの人生だった依存症の仲間達が、とにかく農場に出て手塩に掛けて作物を作る。それが、どんどん成長しているのが目に見えて分かる。夏場なんかは戸外の暑さで大変だけど、ミーティングだけに頼って施設に籠っているよりも遥かに健康的な光景ですよ。入寮者が自然と向き合うことで、体はもちろんだけど心も開かれていく。農作物が育っていく姿を見て、「これならやれる!」という自信が生まれれば、しめたもの。さらにきついはずの農作業が面白くなる。気が付くと農業にどんどんのめり込んでいく…。この循環こそ、いい意味で

の依存関係です。シンプルだけど我が子を慈しむように手を掛けた分、農作物は作り手にきちんと応えてくれます。天候に影響されて出来・不出来はあっても、人間のようには裏切らない(笑)。それが直売所で売れることで評価される訳ですから、これはもうやめられなくなりますよ。——それって、まさに農業を通しての生き直しですね。「人間やめますか」と否定された人達が人間性を取り戻して新しい人生に再チャレンジしていく。その神髄が潮騒農業であり、受け皿となる舞台が鹿嶋市内に点在する潮騒農場という事です。

ユタカ 言うまでもない事だけど、作物が育つ原理の基本は光合成だから、土の力、水の力、太陽の力、それに目に見えない微生物の恩恵も忘れちゃいけない。雑草だって本来から言えば敵じゃないんだよね。うまく付き合えば役に立つ訳で、まさに行き場のなかった仲間達が集まって取り組む潮騒農業は、アディクトの回復にとって象徴的な姿といえます。

——その考え方は面白いですね。そこの所を少し説明してください。

ユタカ ヤク中、アル中、ギャンブル依存症者は、クスリやアルコール、パチンコ・競輪競馬などと引き換えに命を粗末にしてきた人生ですよ。それが農業を通して命そのものの尊さと向き合える訳です。だから農業体験を積んでいけば、その奥深さに目覚め、作物を通して自分の人間としての成長を促されます。まあ全員が全員そううまくいく訳じゃない。

当然、依存症だからスリップは避けられないし、メンバーの入れ替わりはありますが、潮騒では戻って来たらまた農業隊に参加してやりたくなるメンバーも多いです。社会で躓き、失敗したことによって、また新たに潮騒農業に触れて新鮮な感動を得て、さらに自然の偉大さに気づいていく。それが農業の持つ底力、命の循環なのかもしれないですね。そういえば、去年は技術が追い付かず不評だったけど、今年のサツマイモは焼き芋や干し芋も含め、とても出来が良くて美味しいとあちこちで評判です。

潮騒農業は社会と距離を置いているから成立する

——今回は潮騒農業の意義について考える事ができ、広報部門にいる僕らにとっても良い刺激というか、勉強になりました。トムさん何か付け加える点がありますか。

トム そうですね、年を追うごとに技術が向上していると聞いている潮騒農業ですが、一般社会との競争から距

離を置いているからこそ成り立っている、という面も忘れちゃいけないと思います。これは農業に限らないですが、一般にアディクトは社会との競争に晒されると、つい無理して頑張っちゃうから、スリップに繋がりがやすくなります。それに褒められるとつい天狗になってしまうのもアディクトの悪い癖ですから。いつでもどこにも落とし穴が待っています。それだけに農作業と回復プログラム(12ステップ)、ミーティングという三位一体の基本姿勢は、依存症の回復支援として取り組む就労支援では忘れてはいけない大事なポイントですね。そういう意味では謙虚に、僕らは社会の人に比べ半人前である事を、常に自覚しておくことが大事です。

でも逆に、そうだからと言って「潮騒農業は所詮、施設でやる“福祉農業”だから」と開き直ったりしてはいけないと思います。潮騒の場合、他に先駆けての取り組みなので、新鮮なイメージもありますし、他から評価を受けているようですが、これに甘えたりしてもいけないとも思います。ユタカさんにとっては釈迦に説法ですが、これは私的であれ公的であれ施設の取り組む福祉的な意味合いの事業として、常に自戒すべき大事な点です。いったん受けると生活保護への依存からなかなか抜けられないように、これが当たり前になると良いものを作る努力や向上心が薄れていくんですね。

ユタカ 貴重なご助言、ありがとうございます。どっちにしたって丸裸で吹きっ晒しの野に放たれたら、潮騒農業はひとたまりもありません。なので、今ある国の福祉制度を柔軟に生かしながら、潮騒 JTC における就労支援活動の真骨頂である「半就労半福祉」を基本に、ほどほどでやれる農業を今後も続けていきます。

——それが潮騒の「ほどほどでやれる農業」の意味ですね。トムさん、ほかに何か付け加える事がありますか？

トム もう一つ重要なことは場所の問題です。やはり就労支援の農業は、これに相応しい場所がないとだめ、地価の高い都会ではとてもできない相談です。その意味で鹿嶋は地価が安く、地理的な条件に恵まれています。よく新聞に「定年後の田舎暮らし」の物件広告が載っています。東京駅から高速バスで約2時間でしよう、そんなに田舎とも言えない。ここなら比較的、就労支援として自由に使える土地が入手しやすい。潮騒が試行錯誤の末に農業に特化した流れを形成できたのは、場所にも恵まれたからだだと思います。もちろん、ユタカさんのリーダーシップと潮騒の持つマンパワーも忘れてはいけない大事な要素ですが……。 (この項続く)

潮騒農業は依存症者を救う“魔法の杖”だ！



「怠け者のアル中、ヤク中、ギャンブル中毒に、忍耐力のいる“百姓”が務まる訳がないだろう!」。口には出さなくても、そんな風に思われていることは表情から容易に伝わった。否定的な態度だけならまだしも、相手には侮蔑的な表情がありありだ。すっかり慣れっこになった世間の反応や厳しい視線だけど、正直キツイ。「やはり俺たちに農業は無理なのか…」そんなふうに弱気になったことも何度かあった。でも、くじけなかった。俺たちは失うものは何もないといういい意味での開き直りと、何度でも失敗を認める懐の広さを併せ持っているからだ。

そして、これは他にはない生活態度だと思うが、俺たちは物事に対して「無力であることを認める」「ほどほどでやれるのがいい」という独自の信条を、自分たちの生き方の指針としている。自然が相手の農業に対しても理屈をこねることなく、自然体で謙虚な姿勢で臨めている。豊作であれ凶作であれ、農産物の収量に一喜一憂することなく、ありのままの現実を丸ごと受け入れて農業に励んでいる。それが強いては依存症からの回復に結びついている。だから潮騒農業は、俺たち依存症者を救う“魔法の杖”なのだ。

▼元暴力団の栗原センター長が60歳で回復開始

ここは東京から約110km、茨城県東南部に位置する鹿嶋市。鹿嶋灘(太平洋)を望む自然豊かな風土に育まれた農業が中心のまちだ。新日鐵住金鹿島製鉄所の企業城下町でもある。古くから信仰を集める鹿嶋神宮が鎮座し、近年はサッカーJリーグの人気チーム、鹿島アントラーズのホームタウンの中心地としても知名度を上げている。

この地に薬物・アルコール・ギャンブル依存症の民間

回復施設「潮騒ジョブトレーニングセンター(略称・潮騒JTC)」が、前史となる活動を経て本格的に根を下ろしたのは2008年6月(NPO認証は翌年12月)だった。設立者は長く暴力団の世界に身を置いたセンター長の栗原豊(73)だ。栗原は少年時代からアルコールにおぼれ、覚醒剤にも手を出して計7回・通算20年に及ぶ刑務所生活を経て、2003年春に薬物依存症の民間回復支援施設「DARC(ダルク)」に繋がった。当時ダルク内で最年長記録の60歳で回復の歩みをスタートさせた、遅咲きの回復者である。

ダルクは、自らも覚醒剤依存症だった近藤恒夫・日本ダルク代表(74)が1985年に東京都荒川区に設置したのが始まり。以後は草の根的な活動で各地に広まり、回復した仲間がダルクを設立する形で全国約80カ所に関連施設が増えている。ダルクでは共通の回復プログラムを使い、ミーティングによるグループセラピーを通して依存症の回復を目指している。過去に同じように苦しんだ経験を持つだけに、仲間同士の強い絆に支えられているのが特長だ。

▼就労支援に特化した回復施設にリニューアル

栗原は、神栖市にある鹿島ダルクでほぼ順調に回復したが、施設運営を巡って若いリーダーとぶつかり、持ち前の正義感から施設を飛び出した。そして自分が理想とするダルクをつくろうと2005年秋に「鹿嶋潮騒ダルク」を設立し、隣接する鹿嶋市内に居を移して仲間たち5、6人と潮騒JTCの前身となる活動を始めた。数年間は厳しい綱渡りの運営が続いたが、次第に地道な回復活動が実ってアルコール専門病棟を持つ精神科病院などから繋が

るアルコール依存症の仲間が増えてきた。

彼らの多くは薬物の仲間とは異なり、かつて社会で働いた経験があり、就労への意欲が高かった。こうした傾向を鑑み、栗原は温めてきた依存症者の社会復帰と自立に向けた就労支援の取り組みを活動の柱に据え、受け皿となる環境整備に努めた。この時期、独立時のボタンの掛け違いが尾を引いて施設名を巡る問題が浮上したことから、近藤代表の助言を得て「潮騒ジョブトレーニングセンター」に名称に変え、名実共に就労支援に特化した回復施設にリニューアルした。

今では全国のダルクの中でも屈指の施設規模となり、デイ&ナイトケア4施設、スタッフ通勤寮、農業隊・作業隊シェアハウス、職業訓練用の農場(田畑)、野菜等の直売所、干し芋加工場、農場と連携した潮騒食堂の運営…など就労支援の受け皿はもちろん、行き場のない高齢依存症者の“終の棲家”となる小規模デイケアサービスも手掛けている。現在はアルコールを中心に薬物・ギャンブル依存症や複合依存症を含め約130人が入寮し、日々回復プログラムに励んでいる。20～80代まで幅広い世代を受け入れているが、平均年齢が50歳前後と他のダルクに比べて高く、生活保護受給が8割以上を占めている。

▼ファイザー製薬の助成を得て環境整備

就労に向けたプログラムでは入寮者の回復の歩みと希望に沿ってスタッフ研修や施設での役割分担、各種ボランティアの活動への取り組み、農業班や農業隊、ボランティアの仕事隊への参加を促している。このうち、潮騒JTCを象徴する農業隊は地元の専業農家の支援を得て通年での農作業に励んでいる。今では大規模農家並みに約2.5ヘクタールの水稲栽培を手掛け、計4カ所の農場(畑地約2.5ヘクタール)では主力のサツマイモ、ジャガイモ、多品種の野菜作りに挑み、地元JAに出荷するなど金額は多くないものの一定の収益を上げている。

こうした成果は、2012年から3年連続でファイザー製薬の助成を得て取り組んだ結果、実現したものである。自前で農業に特化した就労支援の環境を整備できた恩恵は、貧しい民間施設の潮騒JTCにとってソフト・ハード両面で計り知れない財産となった。入寮者の就労への動機付けを高めたほか、農業者として自立する方向を模索する者や、就労が困難な60～70歳代の高齢依存症者や重複障害者らが自然と向き合いながら作物を育てることで、社会での就労には繋がらなくても新たな生きがいを見出している。

農業隊には比較的回復の進んだメンバーが参加して

いるが、ほとんどが農業の素人である。その中にあって稲作では、新潟県で魚沼産コシヒカリを作っていた古参メンバーが責任者となり、寡黙ながらもトラクターの操作や細かい技術指導に当たっている。農業は未経験だったが、70歳になる高齢メンバーは野菜づくりで頭角を現し仲間から一目置かれている。薬物問題を抱える30～40代の中堅メンバーらは作物を作る面白さと喜びに目覚め、過去の破壊的な人生が嘘のように更生した。手塩に掛けて作物を育てることで達成感を手にし、支援農家やJAなどから農業者として認められ、自己評価を高めている。

▼農業で依存症者の未来に風穴を開けたい

規模拡大に伴い、潮騒農業は機械化にシフトしてきたが、基本はあくまで「自分たちでできるものは自分たちで賄おう」とする、昔ながらの“手作り百姓”精神である。よきライバルの仕事隊が、土木建築などの経験者が多い過去の職歴や重機免許を生かして、施設の営繕や地元ニーズを受けた便利屋作業をボランティアで受託し、地域での評価を高めている動きが刺激になっている。

農業に本格参入して4年、生産したコメは施設内で完全自給できるようになり、野菜は一般客も利用する潮騒食堂に提供されている。力を入れてきた戦略作物の「青パパイヤ作り」は販売体制が整わないために栽培面積を縮小したが、焼き芋や干し芋作りの加工施設も整備しており、今後は商品価値を高める技術の向上に務め、生産から販売、消費まで農業の6次産業化に力を入れる。

農業隊には回復途上にある30人前後が参加しているが、スリップ(再飲酒・薬物再使用・賭博再燃)による躓きの問題を宿命的に抱えているために、メンバーの入れ替わりが激しい。しかし、「依存症の回復にはスリップは不可避であり、何度でも失敗を認める」(栗原豊センター長)との考えから、農業隊に再挑戦する者も多い。しかし、まだまだ依存症に対する地域の誤解や偏見が根強く、施設で一定の回復を見ても現実的には就労や社会復帰は難しい。

このため潮騒JTCでは「アディクションビレッジ構想」を提唱、鹿嶋市を中心とする鹿行地域において依存症者が日々、安心安全に暮らせる地域完結型の総合施設を自前で創り、生活保護や介護保険、障害者総合福祉法の就労継続支援B型など国の支援制度を受けながら「半就労半福祉」の“ほどほどで生きられる”スタイルで、無理せず自分たちのペースで居場所づくりを進めている。潮騒農業は、その中核を担っている。俺たちは農業で依存症者の未来に風穴を開けたい。(終わり)

受刑者からの手紙

ダルクに入寮して覚醒剤と縁を切れる人間になりたい

お葉書届きました。有難うございます。ご返答を頂きまして、本当に安心しております。私も出所時には54歳になります。今回を最後の受刑生活にするには、やはり自分の力だけではまだ心配なのでダルクの協力をお借りしたいです。先日、当所でダルクの教育テレビを見せてもらいました。ダルクの人達や田代さん(マーシー)の覚醒剤を止めていく生活の仕方などを見て、私もダルクの仲間の皆さんと一緒に教育を受けながら、覚醒剤とは縁を切れる人間になりたいと思いました。そういう意味からダルク入寮を勧めて頂きました事、心より感謝致します。(シュンさんのお便りも届きました。すいません) また身元引受人の手続きもパンフレットを参照させて頂きまして、不備のないように願箋提出させて頂きます。この辺で失礼します。(北海道 H・S)

帰住地を潮騒、身柄引受人を栗原さんで申請した

いつも有難う御座います。北海道は流石に最北の地と言ったところで11月に入ってから雪も多く寒い日が続いて居ます。さて、今回こちらに届いたお手紙ですが、要点が良くまとめられてあり、とても読み易かったです。まず入寮の事なのですが、出所後にすぐ入寮したいのです。そのため入寮するにあたり、こちらも身柄引受人を決めなければならないのですが、そちらの方を栗原さんをお願いしても宜しいでしょうか？ 出所はまだまだ先の事になりそうなのですが、私は現在、仮釈放の対象となっており、出来る事なら帰住地を「潮騒ジョブトレーニングセンター」とし、身柄引受人を栗原さんとして、刑務所へ申請したいのです。

申し訳ありませんが、帰住地と身柄引受人を引き受けて頂けるか、次の手紙で知らせて頂ければ、すぐに登録致しますので、宜しくお願い致します。もう一つお尋ねしたいのですが、寮(施設)の規則、外出、外泊等を教えて頂きたいので、重ねて次のお手紙にて御教示お願い致します。出来る事なら早い段階で潮騒に行くことが決まれば、私自身大変落ち着いて生活出来ます。今日はこの辺りでペンを置きます。風邪など引かないよう健康に留意し、生活して下さい。お返事楽しみに待って居ます。(北海道 S・T)

みんな集団生活に入って生活していくのは大変な事

北海道は何処も雪・雪・雪の銀世界へと景色が変わりました。その中でも、皆集団生活に入って生活していくのは大変な事です。ところで私にも昔、この様な経験があります。

(刑務所へ)新入生で行った先で、「これから先どのように生活していくのですか？」と聞かれたので、「皆さんと仲良くやっていく努力をします」と答えたら、「芸能人じゃないのだから、全員と仲良くなど出来る訳が無い！」と言われました。聞かれたから「仲良くやる」と言ったのに、この様な返事です。腹の中では「人に聞いておいて何を言っているの…」とムカツとしましたが、他人は何を考えているのか判らないものです。顔では笑顔で話していても、見えない所では「何だコイツは…」と思われるのです。世の中の人達は十人十色で、癖のある人達がいる事を知りました。昔の話ですいません。

その意味で潮騒ジョブは心配なく、“安心して過ごせる場所”と教えて頂けて、とても嬉しいです。当地はこれからが寒さ厳しい生活に入ります。もっとも寒さという事では、程度の差はあっても鹿嶋も同じだろうと推察します。どうか風邪など引かぬよう、健康には十分に注意して過ごして下さい。お仕事、頑張ってください。それでは失礼致します。(北海道 I・Y)

ダルクや潮騒に初めて入寮した仲間が驚くのは、「ここ来たならクスリをやめることをやめよう!」と言われる事。この逆説の意味するところは、やめようという意思が働いている限り、自分の無力を認められない、回復の第一歩は「もう自分の力ではやめられない」と無力を認める事。世間の価値観とは真逆の世界だけに、ここに辿り着くのはなかなか難しい。

自分自身の為と思えるのは工場の親父の御蔭と感謝

成功裏に終えた昨秋の潮騒ジョブトレーニングセンター11周年フォーラム、おめでとう御座います。そしてお疲れ様でした。大変だったでしょうネ! 出来る事であれば私も参加したい位でした。その為にも今、回復の道を歩んでおります。ここで出来る事は、必要でない薬は飲まない様にする事しか無いのではないかと、思います。だから今私は「自分自身の為なのだ!」と思うようになったのは、工場の親父の御蔭と感謝して居る次第です。これからも、今のこの気持ちを維持して社会復帰に向かって行きます。栗原センター長はじめユウキさん達の下で回復の道を歩んでいきますので、ユウキさんの力をお借りして行きたいのです。ですから私の帰りを楽しみに待っていて下さい。お願い致します。必ずセンターに残っていて下さいね。(東京都 K・Y)

仲間達と手を取り合って 今日と言う一日を大切に生きる

最近思うのですが、薬物事犯を犯す50歳以上の年齢の方が物凄く多いですね。私もその圏内にズッポシと入っています。最近所内で勉強したのですが、50歳以上の再犯率が80%、10人に8人は塀の中に逆戻りと言う現実なのですが、意志が弱いからまた薬物に手を出すのではなく、薬物依存症と言う病気なのです。

一歩社会に出たら誘惑が一杯ですし、「いい品物があるから、遊びに来ないか」とか「SEXの時に使った方がいいよ」とか、薬物の良さを頭脳で覚えているので、そんな事から「不治の病」と言われているのでしょうか。この薬物依存症と云う病気は、一人では回復するのは極めて困難な病気とされていますね。フジさんの場合も、「どんなに時間が経っても薬物の快楽を忘れられない自分がいます」と書いてありましたが、潮騒の仲間の方々もその悩みで苦しむ方が沢山いらっしゃる事なのでしょうね。苦しんでいる仲間達と手を取り合って今日と言う一日を大切に生きて、最初は戦いから始まります。でも自分が回復した頃には、戦わなくても一日を過ごしていける日を、今から楽しみにしています。何はともあれ、薬物依存症は一人では治す事が難しい病気なのだ、と心から思っております。(北海道 N・S)

早く出所して一緒に潮騒での 回復生活を楽しみにしたい

11月下旬に行われた潮騒11周年フォーラムは大成功だったようですね。もちろん私はその場にいませんでしたが、手紙の文面からそう感じられました。厳しい太鼓やエイサーの踊りの練習が実を結んだみたいですね。ユウキさん、いろんな意味で成長できたんじゃないですか。今の気持ちを大切に日々、努力してください。

そういえば年末にはいろんなレクリエーションプログラムがあるんですね。あまり人の事など羨ましいと思わないようにしているのですが、早く出所して皆さんと一緒に(潮騒での回復生活を)楽しみにしたいと思います。できる限り最短で出所できるように務めます(有言実行でね!)

それではここで私の来年(平成27年)の抱負を書いておきます。来年も今の状態でいき、職業訓練に参加できればしたいと、考えております。無事故は絶対条件なので頑張ります。引き受けの件、分かりましたら教えてください。それでは今年最後の手紙、この辺で終わります。いよいよこれからが冬本番です。巷ではノロウイルスやインフルエンザなどが流行していますので、体調管理には十分に気を付けてください。(北海道 N・M)

しおさい俳壇

1月のお題

初詣

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.36

センター長 栗原 豊

これまでも何度か触れたが、一年の中で受刑者が最も楽しみにしているのは正月。三が日の間に出来る豪華なおせち料理とお菓子類だ。刑務所でも年末には工場の清掃をして仕事納めをして正月を待つ、という古来からの日本の伝統が生きている。大晦日には年越しそば(多くはカップ麺の「どん兵衛」か?)も出され、心静かに越年を迎えることになる。そして元旦、世間からすれば罪を犯してひたすら償いと反省の身にあるものが、世間並みに贅沢なおせちを食べるなんて…、と思うかもしれない。おせちは正月三が日の間、自由に食べることが許されている。ただ規則で、三日までには食べきらないといけない。食いきれないからと同囚にあげる事は規則違反となる。私の印象では、正月にはなぜか刑務官の態度が良くなり、普段と比べるとサービス精神がアップする。正月は唯一、麦飯から解放されて白米にありつける。満腹感が味わえるので、正月三が日で数キロは太る者も多かった。それに風呂には入浴剤が入るから、気分もリフレッシュできる。もっとも、その反動からか普段の食事や生活に戻ると、急に寂しい思いに襲われる。そんな事を書いた、姪に宛てた正月の手紙から一。

賀状ありがとう。私はその後も変わりなく過ごしています。正月は雑煮餅、きなこ餅、しるこ餅と日替わりで三日間食べました。ほかにおせちの折詰とお菓子などあり、食べ過ぎて太りました。その結果、現在73キロです。運動は若い者に負けないように懸命にやっているので健康体です。三日はバスクリンに入った風呂で、シャバにいた頃の生活を思い起こしました。

ところで昨年末に私から頼んだ事なのですが、正月早々に兄から送金がありました。なんだかんだ言いながらも応援してくれる家族がいるという事が大変に嬉しいし、また心強く感じています。君から兄夫婦に、お金が届いた事と私の感謝の意を伝えてください。私は今、この中での処遇が四級に落とされていて、発信が月に一回しか許されないのです。

話は変わりますが、ボケ防止に常用漢字のテストを受けています。十級から一級までなのですが、今月は一級に挑戦します。テストは楽勝なのですが、自分がボケ防止のために書いている姿を思うと、なんとも複雑な気持ちです。もう、そんな年齢なんだ、社会にいた時には自分が老いるなんて少しも考えた事がなかったのに…。そうした反省を込めて久し振りに短歌を作りました。

人の名を 憶い出せずに 苦悩する 脳に浮かびし 顔は笑みいて

長き夜の 寂しさつのる 独り居の 夢に出逢いし 女(ひと)を追いある

初詣腕組み詣づ老夫婦

しげ

特選句

初詣は新年に初めて寺社へ詣でて、祈願や昨年に叶った事へのお礼のお参りでもあります。今の様になったのは明治の頃からだと言われ、汽車や交通の発達により、有名な寺社では何百万人の参拝客で賑わう。老夫婦の腕を組みながらの参拝は若い方よりも格別に微笑ましく、家庭の温もりも思う句です。

初詣家族と行かむもう一度

まこ

特選句

今ある人生は生きて来た結果で様々ではありますが、幸せに思うのは平凡ながら家族和やかなのが一番良いかも知れない。今も何処かで戦争があり、近年は地震、豪雨、火事などの被災も多い。そうした諸々の思いの中でも家族は暖かい。もう一度初詣に揃って行きたいと願う切々の句です。

初太鼓木々の木霊の息栖杜

ゆたか

特選句

太鼓は縄文時代からあると言われ、情報通信などから楽器として改良された。長胴、桶胴、附締(しめつけ)太鼓などに区別され、神社の祭礼儀式、神楽、歌舞伎などに用いる。この詠は息栖神社の新年の奉納太鼓で杉木立に響く鹿島灘太鼓は勇ましい。木々も木霊して神々しく思い新年に相応しい句です。私にも「鹿島灘太鼓や荒らぶ冬波も」があります。

今月の秀逸句

初詣着物姿の惚れ直す

ひろ

着物は世界的にも通用する用語だそうで、和服は明治になり洋服に対した言葉とも。また今の着物の原型は平安時代の小袖からで、生地も紬や友禅など絢爛な物、また四季の花模様で可憐な物などあります。初詣などで着物姿の女性に遇うと改めて恋心も湧く、少しの艶冶を込めた句です。

健康を一つ願ひぬ初詣

おの

初詣の願い事は恋や受験、商売、仕事など諸々ですが、何より健康が第一、健康であれば願いも叶う。簡素な詠ながら実感の誰が思う句です。

初詣もろもろ願う五円玉

こば

寺社の賽銭は一般には百円以下が多いが、百円くらいでは多くの願い事は神様も引き受け難いかも。五円は御縁の意もあり、これも俳諧の句でありましょう。

人多きことも暖か初詣

くま

川崎大師、成田山新勝寺などは何百万人が詣でるが、それは日和も良く交通の良さもある、大勢の賑わいで暖かさや神仏への願い事も多い人の世を思う句です。

子の幸も合わせて願ふ悴む手

めい

初詣か、または手が悴(かじか)むほど寒い日の宮参りかも。自分の願いに合わせ子の幸も祈る、親子共に暮らしても子への思いは尽きないが別なら猶更、母親の切々の句です。

初詣遠くの家族思ひをり

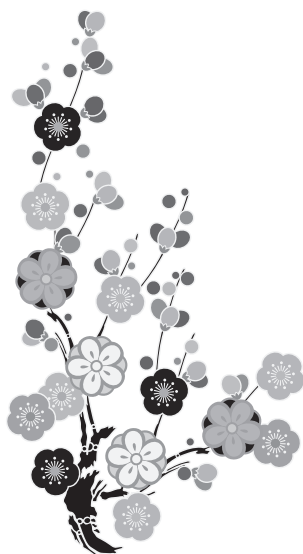
みく

現代社会は出張転勤など家族離れて暮らすのが多いし、別の事情もある。以前に家族で初詣をした日など思い出しているのか、私も里の正月を懐かしむ句です。

星空や阿智村らしき年迎え

いるか

阿智村は長野県下伊奈郡の村で昼神温泉や星の綺麗な村で有名。私も尋ねて懐かしい。原句は少し変えましたが、これで新年の星空を迎える景の見える詠になります。



佳作

初詣孫の受験を祈りたる

おの

初詣家族の幸も祈りたり

みく

茜差す筑波の日の出初詣

こば

初詣願ひ叶うをけふも待つ

ゆうこ

初詣鹿の迎えの鹿島宮

ひろ

七五三かねて鹿島に初詣

もと

初詣すぐに楽しき福来る

なあな

ゆかりんと腕組み参る初詣

けん

今年また心新たな初詣

れいこ

一礼に了へる作法や初詣

ゆたか

初日の出拝み帰りの初詣

しま

どっこい私も生きてます～我が回復記～「ブーちゃんの回復記」

第4回

叔父の中華料理店で働くも3年で転落人生に

飲酒がもとで高校をやめてしまったものの、まだ十代後半だった僕には具体的な人生の目標や、きちんと会社勤めしようという気持ちはありませんでした。ほとんど考えなしに「とりあえず酒が飲めればいい」という感じで、その日暮らしのアルバイトで食いつなぐ生活でした。まあ、母親をはじめ周囲には迷惑を掛けっぱなしでしたから、このままじゃいけないという思いもあって、18歳の時に東京・世田谷区内の中華料理屋で働くようになりました。ここで最初の3年間、少し間を於いてあと4年間、通算7年にわたり働きました。世話になった経営者の叔父(母親の弟)は、とても厳しい人でした。店の仕事は肉体的にも精神的にもきつく、腕を磨こうとか料理人として身を立てようとかの明確な目標のなかった僕は逃げ出す事ばかりを考えていました。

その当時だって仕事が終わると酒を飲んではいたのですが、叔父の目がとても怖いのと、苦勞を掛け続けた母親の手前もあってか、何とか休まずに店には出ていました。でも、腰を据えて働く意識の弱かった僕の忍耐力は、3年しか持ちませんでした。とうとう叔父に向かって「俺店をやめます!」と言ってしまったのです。このひと言で、それまで曲がりなりにも僕を支えていたシラフの糸がプツン!と切れてしまいました。その瞬間から、また悪い意味での開放感が出てしまい、以前のように飲んだくれの荒れた生活に戻ってしまったのです。そして間もなく第1回目の「底つき」とも言える“事件”に遭遇し、なんと25歳の若さでホームレス生活に転落してしまいました。

(次号に続く)

1月のバースデイ

きく



色々あんだよ!!

しも



潮騒に来て酒が止まりました。

ネモ



頑張ってます。

ボッシー



色々あります。。

ゆう



ひとしのばか……

ていじ

忘れられてました。
(本当は12月生まれ)

びーと

37になりました。
努力します。

しげ



継続は力なり。

地元支援者の幸友住宅から乗用車が寄贈される

潮騒 JTC の地元支援者で、施設の建物補修等でお世話になっている幸友住宅(谷田川茂徳社長)から、このほど「潮騒ジョブで使ってほしい」と中古自動車が寄贈されました。献車頂いたのは人気の大衆車・日産ノートで、車検を終えたばかりです。走行距離は5万キロ程度なので、まだまだ十分に走れます。

潮騒では他に比べ入寮の門戸が広いことから、多様な持病を抱えた高齢依存症者の入寮者が急増し、スタッフが病院送迎などに追われ、これに使える施設車が不足気味でした。その一方、このところ不注意運転による自損事故が続き、保険料の支払いと共に廃車問題が急浮上しています。潮騒は苦しい台所事情だけに、施設車の不足への対応が深刻な課題でした。

それだけに栗原センター長は「少人数が利用できる施設車が求められていたので、まさに時宜を得た献車。有難い限りです。スタッフの共同使用にして、病院や役所などに行く際に使わせて頂きます。依存症の回復支援を下支えとなるので、スタッフには安全運転に注意してもらい、丁寧に使ってもらいます」と感謝していました。



1月の行事予定

- 1月1日 息栖神社 鹿島灘太鼓の初打ち
 1月4日 鹿島神宮への初詣・新年初顔合わせ
 1月8・21日 秋元病院メッセージ
 1月12日 潮騒俳句会
 1月22日 潮騒家族会
 1月29日 潮騒アディクションセミナー

2月の行事予定

- 2月3日 鹿島神宮 豆まき
 2月9日 潮騒俳句会
 2月12・19日 秋元病院メッセージ
 2月19日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方 (12月15日現在)

- | | |
|---------------------|------------|
| ・島田正之 様 | ・K&G 企画 様 |
| ・増古四郎 様 | ・幸友住宅(株) 様 |
| ・土屋幸枝 様 | ・美空野保育園 様 |
| ・内堀高良 様 | ・(株)トーマス 様 |
| ・匿名希望(猫のえさ代) 様 | ・横堀 様 |
| ・AOI 様 | |
| ・市毛勝三(農業記録賞優良賞賞金) 様 | |

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。
 おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。
 ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただきます。どうぞご理解のほどをお願いします。

編集後記という名の独り言

思いがけず毎日新聞社が主催する「毎日農業記録賞」の優良賞に選ばれ、昨年暮れに水戸支局長が潮騒を訪れて表彰を受けた(8ページに受賞の提出原稿)。本来なら代表の栗原センター長が手にすべき賞なのだが、同社の規則で作成者が受けることになっており、支援職の立場なのだが潮騒の広報部員として有難く頂いた。潮騒の関係者の皆さんに感謝します▼支局長は「茨城県内では一番いい賞ですよ!」と言ってくれたが、この原稿を書いたのが締切日の前日だったので、もっと見直して募集の趣旨に沿って手を入れれば上位の賞も狙えたのに…、との反省もある。自分の名誉欲を満たそうとかの思いではなく、もっと世間に潮騒の事を知ってほしいとの願いから書いたものなので、少しは苦勞が報われた思いがしている。▼実は一昨年の潮騒 10 周年で自分の役割は終えたと考えていた。加えて昨年妻が急死したので、残る最後の仕事をやり終えたら潮騒での任務を終えようと、勝手ながら引き際を考えていた。でも僕より 10 歳以上も年上の栗原センター長が昨春、新たに夜間高校での「学び」をスタートさせたことで、考え直した。そして本号の巻頭言では、「依存症の回復はあの世でも続く」と新たなビジョンを示してくれた。これこそ優れた「精神のリレー」だと思う▼ところで世界が毒を飲んで苦しんでいるかのように、世の中が急速におかしくなっている。一見分かりやすい図式で対立感情を煽り、偏狭なナショナリズムが幅を利かしている。前にも書いたが、あちこちで人間関係がぎすぎすして感情がさくれ立っているような危機感を抱く。これまでであった寛容さ、ダルクでいう「いい加減」の振幅がとても狭くなり、人として最も大事な「許しと癒し」が巷になくなっていくように感じるのだ▼それだけに宗教家とは異なる次元で「許しと癒し」を実践する栗原センター長の悠久のビジョンを、僕は拙いながらも潮騒通信で言葉に紡ぎ出す作業を続けようと思う。(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2016 年 1 号

Contents

- P② 死んだ仲間への鎮魂歌 ～依存症の回復はあの世でも続く
 P③ センジイのお別れ会
 毎日犬の散歩を欠かさなかった仲間の死を惜しむ
 P④ 潮騒恒例 年末年始イベント
 P⑥ ユタカ VS トム 対談 第 12 回
 「潮騒農業は体だけでなく心も健康に導いてくれる」
 P⑧ 潮騒農業は依存症者を救う“魔法の杖”だ!
 P⑩ 受刑者からの手紙
 P⑫ しおさい俳壇「初詣」
 P⑭ どっこい私も生きてます「ブーちゃんの回復記」第 4 回

■ 編集・発行:

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム(中施設)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098

潮騒スリークオーターハウス鉾田
 〒311-2113 茨城県鉾田市上幡木 1113-39

E-メール k.s-darc@orange.plala.or.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



